

調査委員会における調査研究報告書

教科名 (国語)

No.1

調査研究の観点	所 見		
	発行者 (東京書籍) 発行者番号 (2)	発行者 (学校図書) 発行者番号 (11)	発行者 (三省堂) 発行者番号 (15)
1 内容	<p>①「話す・聞く」の内容が、スピーチ、グループセッション重視で幅が狭いが、テーマ例が挙げられているので指導しやすい。</p> <p>②第1学年で説明文・意見文・鑑賞文、第2学年でレポート・意見文・創作文、第3学年で批評文を書くことになっており、扱いが幅広い。</p> <p>③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。</p> <p>④学習の手引きは段階的に学習できるようになっている。</p> <p>⑤「文法の窓」は、内容ごとでまとまっている。巻末資料でも取り組めるようになっている。</p>	<p>①「話す・聞く」の内容が多岐にわたっているが、テーマ例はないので、具体的な活動に結び付けにくい。</p> <p>②第1学年で本の紹介文と事実文、第2学年で創作と意見文、第3学年で批評文とエッセイを書くことになっており、発達段階が考慮されている。</p> <p>③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。</p> <p>④学習の手引きは、設問が丁寧で工夫もあり、主体的な学習に取り組めるようになっている。</p> <p>⑤文法は、「文法の学習」では内容的に十分でないが、巻末資料でも取り組めるようになっている。</p>	<p>①「話す・聞く」の内容が比較的多岐にわたっており、各学年で飽きさせずに指導することができる。テーマ例も挙げられている。</p> <p>②第1学年で意見文・鑑賞文、第2学年で主張文・創作文、第3学年で小論文・批評文を書くことになっており、発達段階を考えるとやや難しい。</p> <p>③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。「読み方を学ぼう」は生徒の主体的な学びにつながる。</p> <p>④学習の手引きは、主体的な学習に取り組める課題になっている。</p> <p>⑤「文法のまど」は系統立てた内容になっている。巻末資料でも取り組めるようになっている。</p>
2 構成・分量	<p>①本編・基礎編・資料編の3部構成で、基礎編・資料編では本編と関連付けた学習ができる。</p> <p>②適切な構成となっているが、各学年、第1単元が随筆と韻文であるため、年度初めの授業での取扱いが難しい。</p> <p>③古典作品は、第1学年次の原文がやや多めである。</p> <p>④作品ごとの欄外の読書案内に加え、「読書」教材に読書案内のページが付いている。資料編にビブリオバトルなどの読書活動もある。</p>	<p>①5つの単元で構成され、全学年共通のテーマに応じた教材が配置され、学年ごとの深まりがある。</p> <p>②各学年、第1単元が随想や小説となっており、年度初めの授業としては、作品の内容が難しい。</p> <p>③古典作品は、質量ともに充実しているが、第1学年次から原文が多く、授業での取扱いが難しい。</p> <p>④読み物教材の分量が豊富な反面、巻末の読書案内の分量は少なくなっている。</p>	<p>①必修内容を学習する本編と、言葉の力を高める資料編の二部構成になっている。</p> <p>②各学年、第1単元が詩と小説・物語 (第3学年は評論) である。年度初めに取り組むには適切な分量である。</p> <p>③古典作品は、第2学年次の随筆は原文が多いものの、短い文章を2～3載せているため、授業の進行に合わせて工夫できる。</p> <p>④作品ごとの読書案内に加えて読書案内も充実している。ポップ作り・ブックトーク・ビブリオバトルなどの読書活動もある。</p>
3 表記・表現	<p>①表紙を含め、イラストや写真が豊富で親しみやすい。</p> <p>②文字のサイズは第1学年が大きめで配慮されている。</p> <p>③古典の現代仮名遣いが、全て左側に記入されており、ふりがなの重複表示が避けられている。</p> <p>④古典教材は、多くが原文と口語訳が上下で配置されている。</p>	<p>①表紙を含め、イラストや写真の多くが地味な色合いのため、やや暗い感じで親しみがもちにくい。</p> <p>②文字のサイズは全学年を通じて大きめで工夫されている。</p> <p>③古典の現代仮名遣いが、第1・第2学年次はふりがな下に、それ以外は右に記入されている。第3学年次にふりがなはない。</p> <p>④古典教材の口語訳は部分的なもので、やや小さい。上下での配置はない。</p>	<p>①表紙を含め、イラストや写真が豊富で親しみやすいが、「走れメロス」(第2学年)については、挿絵が生徒の想像を妨げてしまう恐れがある。</p> <p>②文字のサイズは、古典では特に大きめの文字を使用するなど、読みやすさへの工夫がある。</p> <p>③古典の現代仮名遣いが、学年を追って口語訳との重複を避けるため左側から右側への移動もあり、第3学年次にはなくすなど工夫がある。</p> <p>④古典教材は、適宜、原文と口語訳が上下で配置されている。</p>
4 使用上の便宜	<p>①巻頭の折り込みに「学習の進め方・教科書の使い方」があり、巻末と合わせて、既習事項の確認と1年間の学習の見通しをもつことができる。</p> <p>②資料編は内容的に多く、特に古典が充実している。</p> <p>③新出漢字一覧は、筆順や用例もある。</p>	<p>①各学年の冒頭に言葉の学習に関する導入のページがあるが、系列表がないため、観点ごとのつながりが把握しづらい。</p> <p>②「発見する読み」などコラム的なものは充実しているが、巻末の資料が少なめである。</p> <p>③新出漢字一覧が常用漢字一覧に含まれているため活用しづらい。</p>	<p>①各学年の冒頭に「領域別教材一覧」があり、1年間の学習の見通しがもちやすい。</p> <p>②資料編は実践に役立つ方法・知識が充実している。「学習用語辞典」は、学習活動に関連する用語が分かりやすくまとめられている。</p> <p>③新出漢字一覧は、筆順や用例もある。</p>

調査委員会における調査研究報告書

教科名 (国語)

No.2

調査研究の観点	所 見		
	発行者 (教育出版) 発行者番号 (17)	発行者 (光村図書出版) 発行者番号 (38)	発行者 () 発行者番号 ()
1 内容	<p>①「話す・聞く」の内容が、スピーチ、グループセッション重視で幅が狭い。話すテーマの例もないため、具体的な活動に結び付けにくい。</p> <p>②第1学年で鑑賞文・意見文、第2学年で物語の創作・意見文、第3学年で批評文を書くことになっており、発達段階を考えるとやや難しい。</p> <p>③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。現在の人気作家の作品も取り上げている。</p> <p>④学習の手引きは段階的に学習できるようになっている。「ここが大事」というまとめがある。</p> <p>⑤「文法の小窓」は工夫もあるが内容をつかみづらい。巻末資料でも取り組めるようになっており、図は適切で分かりやすい。</p>	<p>①「話す・聞く」の内容が、スピーチ・プレゼンテーション、グループセッション重視で幅が狭いが、話すテーマの例があるので具体的な活動に結び付けやすい。</p> <p>②第1学年で説明文・レポート、第2学年で手紙・意見文、第3学年で批評文を書くことになっており、発達段階が考慮されている。</p> <p>③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。</p> <p>④学習の手引きは、ポイントを示した「学習の窓」と併せて、主体的な学習に取り組める課題になっている。</p> <p>⑤「文法への扉」は分かりやすく説明されているが、やや簡素である。巻末資料でも取り組めるようになっていいる。</p>	<div style="font-size: 4em; transform: rotate(45deg); opacity: 0.5;">/</div>
2 構成・分量	<p>①本編と巻末の言葉と文法、漢字、言葉の自習室に分かれ、本編は7つの単元から構成されている。</p> <p>②各学年、第1単元が詩と小説(第3学年は随筆)である。年度初めに取り組むには適切な分量である。</p> <p>③古典作品では、第2学年次の随筆は一作品で短めの原文が二場面(段)以上であり、総量も適量である。</p> <p>④作品ごとの読書案内に加え、「読書」教材の後に様々な読書活動が示されている。巻末にも読書案内がある。</p>	<p>①「本教材」「小教材」「練習教材」「コラム」で構成され、言葉の力を総合的に身に付けるようになっていいる。</p> <p>②各学年、第1単元が詩と小説・物語である。年度初めに取り組むには適切な分量である。特に第1学年は親しみやすい作品となっている。</p> <p>③古典作品では、第2学年次の随筆は一作品一場面(段)で(巻末に資料掲載)、その分長めの原文である。</p> <p>④作品ごとの欄外の読書案内に加え、「読書」教材の後に様々な読書活動や読書案内のページが付いている。</p>	<div style="font-size: 4em; transform: rotate(45deg); opacity: 0.5;">/</div>
3 表記・表現	<p>①表紙を含め、全体的にイラストや写真が地味で、作品のイメージや親しみがもちにくい。</p> <p>②文字サイズは発達段階を考慮して、低学年ほど大きめで読みやすい。</p> <p>③古典の現代仮名遣いが、全て右側に記入されている。</p> <p>④古典教材は、適宜、原文と口語訳が上下で配置されている。</p>	<p>①表紙を含め、イラストや写真が豊富で親しみやすい。</p> <p>②文字のサイズは、第1学年が大きめで配慮されている。</p> <p>③古典の現代仮名遣いが、第1・第2学年では全て右側に記入されている。第3学年次には現代仮名遣いがない。</p> <p>④古典教材は、適宜、原文と口語訳が上下で配置されている。</p>	<div style="font-size: 4em; transform: rotate(45deg); opacity: 0.5;">/</div>
4 使用上の便宜	<p>①各学年の冒頭に「身につけたい言葉の力」「教材で扱う内容」で学習の重点や見通しをもてる。</p> <p>②巻末の折り込みに、「百人一首」の一覧が掲載されており(第1学年)、学習に役立たせることができる。</p> <p>③新出漢字一覧は、筆順や用例もある。</p>	<p>①各学年の冒頭に「学習の見通しをもとう」があり、1年間の学習の見通しがしやすい。</p> <p>②巻末折り込みにある「文学的(説明的)な文章を読むために」で、基本的な学習用語や読みの観点を確認することができる。</p> <p>③新出漢字一覧は、筆順や用例もある。</p>	<div style="font-size: 4em; transform: rotate(45deg); opacity: 0.5;">/</div>